

第3回 緑のまちづくりワークショップ 開催結果

日 時：平成22年9月11日（土）13：00～16：00

場 所：仙台市七北田公園 都市緑化ホール

参加者：市民24名、コーディネーター（宮城大学：古川隆氏）

第3回 緑のまちづくりワークショップ結果概要

1.オリエンテーション

- ・はじめに、コーディネーターから前回のおさらいと今回のワークショップの進め方、注意事項等の説明がありました。

2.各テーマの取組み、課題、役割分担について意見交換

- ・各テーマに関して、メンバーが前回結果を踏まえて考えてきた「①取組み」、「②課題」、「③役割分担」を発表し合い、意見を整理しました。
- ・その中から、メンバーが特に関心がある、または特に大切な取組みを選び、より具体的な取組み内容について意見交換し、模造紙に整理しました。
- ・最後に、各グループが結果を発表し、全員で意見交換しました。

A:「生物多様性の保全」グループの主な意見

- ・生物多様性を保全するため、私有地にある樹林地を残すことが必要。
- ・そのためには、商売として開発されてしまう、担保性のない樹林地が課題。
- ・そこで、市民や企業の基金によるナショナルトラスト制度を導入し、地権者の負担を軽減するため、樹林地の維持管理活動の支援を行う仕組みを提案。

B:「公園魅力アップ」グループの主な意見

- ・生活に身近な小公園の魅力を高めるため、地域が主体的に管理し、地域ニーズに対応した自由な利用を促すことが必要。
- ・そのためには、仙台市から地域へ、公園の管理や利用に関する権限を委譲することが課題。
- ・そこで、地域の住民・企業・学校等をまとめるコーディネーターを育成し、仙台市との協定のもと、地域が責任を持って管理し、楽しいイベントなどを行っていく仕組みを提案。

C:「街のみどり充実」グループの主な意見

- ・身近なみどりを残す、増やすため、屋敷林の保全や事業用地の緑化などが必要。
- ・そのためには、緑化のメリットや貢献度を分かるようにすることが課題。
- ・そこで、価値ある屋敷林を保存樹林として固定資産税を減税、私有地緑化に対し、エコポイントを与える、緑化によるCO₂削減量を換算するなど提案。

D:「みどりの拠点づくり」グループの主な意見

- ・みどりの拠点づくりとして、仙台の歴史・文化・自然を含む風土を大切にしたい都市のシンボルとなる拠点を形成するとともに、それを活かすネットワークづくりが必要。
- ・そのためには、みどりを「使う」だけでなく、「つくる」ことが課題。また、拠点づくりの計画がバラバラであることが課題。
- ・そこで、みどりのメリットを受けている人や企業が拠点づくりに対して負担する、拠点づくりのロードマップをつくるなどを提案。



全体の意見交換の様子



Aグループの発表の様子



Bグループの発表の様子



Cグループの発表の様子



Dグループの発表の様子



全体の意見交換の様子